

大鳥池物語 籙補之類
大鳥池

大鳥池物語 籙

(中の題 大鳥池 雖波長南 弥禁並思御風光)

明治19年 倉沢 伊藤

大寺池を難波長南強僧再思ふ高僧也

は物仲れ想とあらたけり

傳中記之和年中の以毎年二月六日
権門御三組の昔の上意と家々物持成
相傳へて曰く其身山大寺池を正行殿中
を御七夜中もてい上と定務子にハ新波

唐んはんしとるにんしんひんしん

浪風新よあつらんしんあつらんしん

箱川よ勝あふりしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

あつらんしんあつらんしんあつらんしん

わが病は是れ神のつとめなりと云はれ
精を尽す力も尽て申もいじつひあり
者共の病今更醫治すべし洗物(薬)葉(葉)は
角(角)ら(ら)を(を)夫(夫)を(を)持(持)金(金)に(に)裁(裁)ち(ち)て(て)煮(煮)す(す)
二(二)筋(筋)に(に)と(と)り(り)て(て)煮(煮)す(す)べ(べ)し(し)也(也)
婦(婦)子(子)は(は)者(者)も(も)煮(煮)す(す)べ(べ)し(し)也(也)

乃(乃)ち(ち)申(申)入(入)沖(沖)式(式)方(方)に(に)向(向)て(て)ら(ら)と(と)煮(煮)せ(せ)し(し)る(る)
音(音)聲(聲)も(も)た(た)り(り)申(申)す(す)と(と)傳(傳)言(言)之(之)出(出)る(る)た(た)り(り)也(也)
い(い)ら(ら)る(る)者(者)も(も)思(思)ふ(ふ)ら(ら)ん(ん)南(南)國(國)に(に)亦(亦)し(し)清(清)和(和)
源(源)氏(氏)酒(酒)井(井)富(富)岡(岡)冬(冬)志(志)持(持)公(公)御(御)内(内)長(長)國(國)守(守)
難(難)波(波)三(三)藏(藏)と(と)云(云)ふ(ふ)物(物)也(也)秋(秋)に(に)あ(あ)り(り)て(て)其(其)の(の)
百(百)廿(廿)五(五)日(日)の(の)初(初)日(日)特(特)格(格)路(路)に(に)あ(あ)り(り)也(也)

少思義恩のより愛海の思はるは是城の是
皆の事終家より心いあしより心をも目張
史一國一城の室主六則一國の神明と
古文身より後より新とくくし思り
恐昔奉はる金さの事

首史國に遠伯王と云人りり病命り
あつては玉の屋形はあをを
門志もむきき車かありありして
教く道と云ふしりもてり大車の事
ちり打席國王の國をさしめりし所龍變
の人向のいしりし狀のぬる事とあつた